

令和6年3月28日
消 防 庁

「住宅における電気火災に係る防火安全対策検討会」報告書の公表

消防庁では、「住宅における電気火災に係る防火安全対策検討会」（座長：小林 恭一 東京理科大学総合研究院火災科学研究所教授）を立ち上げ、電気器具類を原因とする住宅火災について調査・分析し、効果的な予防策とその広報等のあり方について検討を行いました。

このたび、「住宅における電気火災に係る防火安全対策検討会」の報告書及びポイント（別紙）を取りまとめましたので公表します。

1 検討会の目的

全国の住宅火災の状況を見ると、住宅火災の件数は10年前（平成25年）と比較して約86%まで減少し、令和2年に初めて1万件/年を下回ったものの、令和3年及び4年には再び増加している。

特に近年、電気器具類を発火源とする住宅火災の件数が増加しており、令和4年には火災原因の約2割（2,018件）を占め、10年前（平成25年、1,431件）から約4割増加している。

こうした電気器具類を発火源とする火災の増加については、家庭内で使用する電気製品の増加、高経年化等が要因として考えられるが、具体的に発火に至る経過・背景等は分かっていないという課題があった。

そこで、本検討会では、住宅における電気器具類を発火源とする火災について調査・分析し、効果的な予防策とその広報等のあり方について検討を行った。

また、検討会中において「廃棄物処理施設及び塵芥車における充電式電池を発火源とする火災の状況等についても調査し、必要に応じて注意喚起すべきではないか」との意見を踏まえ、追加の調査・分析を行った。

2 報告書の掲載先

消防庁ホームページー検討会等

<https://www.fdma.go.jp/singi_kento/kento/post-141.html>



【問い合わせ先】

消防庁予防課 濱田、泉、菅野

TEL : 03-5253-7523 (直通)

E-Mail : yobouka-y/atmark/ml.soumu.go.jp

※迷惑メール防止のため、「@」を「/atmark/」
と表示しておりますので、送信の際は、「@」
に置き換えてください。

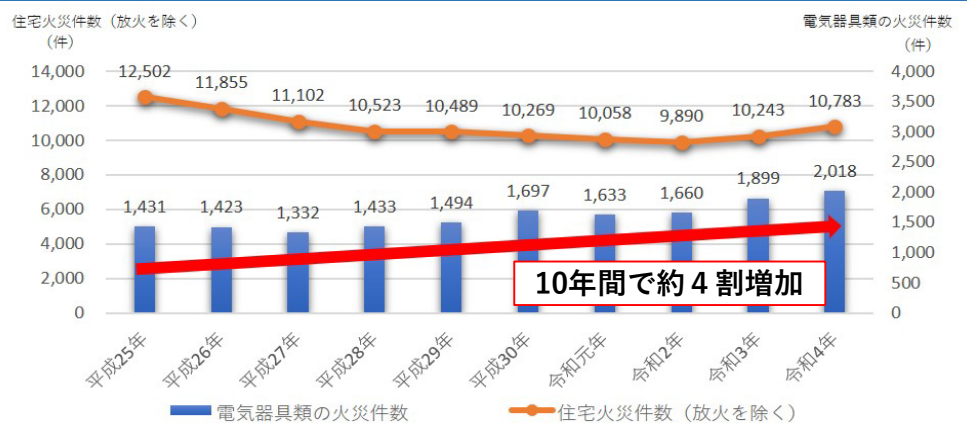


①住宅における電気火災の状況

- 近年、電気器具類※を原因とする火災（家電製品や電気配線を原因とする火災）は増加しており、平成25年は1,431件でしたが、令和4年には2,018件と約4割増加し、住宅火災の原因の第1位となっています。
- このため消防庁では、令和5年度に「住宅における電気火災に係る防火安全対策検討会」において、どのような背景で電気火災が発生しているのか等について、調査・分析を行いました。
- 本検討会において事例調査を行ったところ、電気火災の約8割は使用者に起因（不適切な使用や維持管理不良）するものでした。

※ 家庭内で使用される「電子レンジ」や「エアコン」、「延長コード」や「電源コード」、「電池」などの電気機器、電気製品など。

住宅火災の件数と電気火災件数の推移（平成25年から令和4年まで）

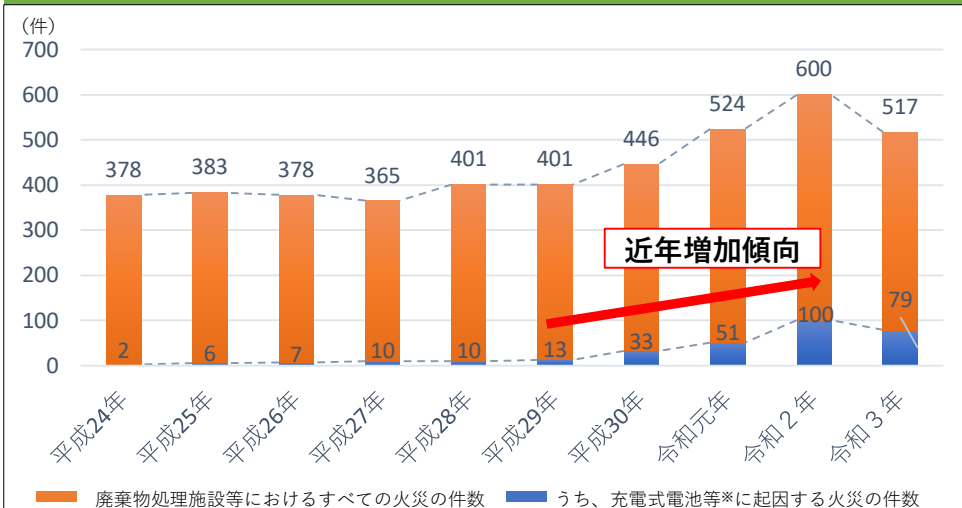


プラグがショート（トラッキング現象）し火災に至る再現実験の様子

②廃棄物処理施設等（廃棄物処理施設・塵芥車）における充電式電池による火災の状況

- ①の他、充電式電池等による廃棄物処理施設等（廃棄物処理施設、塵芥車）における火災も増加しています。
- 家庭から廃棄されたリチウムイオン蓄電池等の充電式電池が火災の原因となっている可能性があるため追加の分析・調査を行いました。
- 充電式電池等による火災は、平成24年には全火災件数のうち0.1%（2/378件）でしたが、令和3年にはおよそ2割（79/517件）を占めるまで増加しています。
- 事例調査を行ったところ、廃棄物処理施設における充電式電池による火災は、そのほとんどがリチウムイオン蓄電池を含む製品が不適当に廃棄されたことによるとと思われる火災でした。

廃棄物処理施設等（廃棄物処理施設・塵芥車）の火災件数の推移（平成24年から令和3年まで）



ごみ袋内の充電式電池（ポータブル電源）から出火した事例
(東京消防庁HPより引用)

※ リチウム電池は一次電池だが「リチウムイオン蓄電池」と混同して回答されている可能性があるリチウム電池を含めて分析を行った。

①住宅における電気火災を防ぐための主な対策

○テーブルタップ

事例 ・テーブルタップを定格容量以上の電気製品を接続し使用したため火災となった。
・テーブルタップの差し込み口に水や異物が入りショート（トラッキング現象）し火災となった。

対策 ➔ テーブルタップは定格容量以内で使用する。水や異物が入りやすい場所では使用しない。

○プラグ

事例 ・プラグにホコリが溜まった状態で使用したため、差し刃間でショート（トラッキング現象）し火災となった。

・プラグが抜けかけた状態で使用したため、プラグとコンセント間で火花が発生し火災となった。

対策 ➔ 定期的にプラグを点検・清掃し、プラグが抜けかけていないか確認する。

○電源コード

事例 ・電源コードの上に家具等の重いものが載っていたため、断線し火災となった。

・電源コードを束ねた状態で使用したため、断線し火災となった。

対策 ➔ 電源コードに重いものが載っていないか確認する。電源コードは束ねずに使用する。

○リチウムイオン蓄電池

事例 ・落下・浸水したモバイルバッテリーを使用していたところ火災となった。

・モバイルバッテリーが暖房器具の温風により加熱されたことで火災となった。

対策 ➔ 破損・膨張などの異常のある場合は使用しない。リチウムイオン蓄電池は熱くなる場所に放置しない。

○電子レンジ

事例 ・さつまいもを電子レンジで加熱した際、レシピとさつまいもの大きさが異なり、加熱時間が長すぎたためにさつまいもから火災となった。

・電子レンジでは加熱できないアルミ箔で包装された食品を加熱したため火災となった。

対策 ➔ 加熱中はその場から離れない。取扱い説明書に従って使用する。

製品の取扱い説明書の指示に従い、正しく使用・管理することが重要です。



テーブルタップ・プラグ
トラッキング現象の再現映像



電源コード（半断線）火災の再現映像



モバイルバッテリー火災の再現映像



電子レンジ（庫内）火災の再現映像

（その他の火災事例については、「住宅における電気火災に係る防火安全対策検討会 報告書」をご覧ください。）

②廃棄物処理施設等（廃棄物処理施設・塵芥車）における充電式電池による火災を防ぐための主な対策

事例 ・不燃ごみとして廃棄された「モバイルバッテリー等（電子タバコなどを含む。）」や「コードレス掃除機」、「ノートパソコン」、「電動アシスト自転車」等に含まれる充電式電池が廃棄物処理施設内で圧縮され、破損したため火災となった。

※廃棄物処理施設や塵芥車において発生している充電式電池による火災は、本来回収対象ではない充電式電池が他のゴミと一緒に廃棄され、粉碎機や回転板などの外力によって短絡を起こし出火、周囲の可燃物（ごみ）に着火するケースがほとんどです。

対策 ➔ 地域の分別ルールに従って廃棄する。

リチウムイオン蓄電池等の充電式電池を含む家電製品等を廃棄する場合は、地域の分別ルールに従って廃棄することが重要です。

<今後の方針>

- 住宅における電気火災に係る防火安全対策の周知のため、消防庁ホームページやSNS、全国火災予防運動等の機会を捉え、関係省庁、関係機関、関係団体、メーカーとも連携しながら広報活動を実施していく必要がある。